

科目名	視覚機能病態学特論			分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位				
担当教員	◎教授 三橋俊文 講師 大鹿京子					科目ナンバー	T1C204				
課程	博士後期	配当年次	1～2年	配当学期	通年	授業方法	講義				
授業の概要	視覚機能の病態として眼科領域病変の機序について考察する。										
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病態に関連した眼の機能を学修する。 2. 光学系だけでなく大脳への神経経路の基礎と、心理物理的な特徴を学修する。 3. 空間知覚、色覚、奥行知覚、運動視への病態の影響を説明できる。 4. 網膜・ぶどう膜・視神経の眼底画像を解析し研究を進める。 5. 眼球および外眼部の機能検査と病態の記録を中心に学修する。 6. 環境と視覚機能との関係を考究する。 										
授業計画	回数	担当者		行動目標							
	1										
	2										
	3										
	4										
	5										
	6										
	7										
	8	三橋 俊文	教授	<ol style="list-style-type: none"> 1. 結像論、錐体の空間分布と分光を説明できる。 2. 視覚系の網膜での処理と大脳皮質での処理を説明できる。 3. 色覚、奥行知覚、運動視を説明できる。 4. 網膜変性疾患:網膜剥離を含む硝子体－網膜病変、網膜色素変性および類縁疾患、遺伝性疾患、薬剤中毒性疾患を説明できる。 5. 網膜血管病変:糖尿病網膜症、網膜動静脈閉塞、その他の血管障害や循環障害を説明できる。 6. 脈絡膜血管病変:加齢黄斑変性、中心性漿液性脈絡網膜症、各種新生管黄斑症などを説明できる。 7. 炎症性病変:ぶどう膜炎、感染性病変を説明できる。 8. 視神経病変:緑内障性視神経症を説明できる。 							
	9	大鹿 京子	講師								
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
15											
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおく。 回次の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておく。									
	【事後学修】	授業を復習し、課題が提出されていけば行う。									
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。									
教科書	Wandell, "Foundations of Vision", Sinauer										
参考書	Oyster, "The Human Eye: Structure and Function", Sinauer この他、随時指示する。										
成績評価の方法および基準	授業内課題を含む口頭試問60%、レポート40%										
その他履修上の注意事項	課題やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。 (ディプロマ・ポリシー3に相当する)										